



香美市文芸

【短歌】

楠瀬 兵五郎 選

ひと影のうすれし吾のふる里に道はつきゆくたな田うづめて  
 手伝ひと言ふも用なさず子の店に來りまごつく親といふもの  
 波の音下におだしく高架より見渡すをちこち桜の盛り  
 朝よりか重たき心なんとなく花を買ひ來て植系ならべある  
 泳ぎ來て群れ沈みゆく鯉の稚魚水際に青鷺は立ちて動かず  
 見返れば伊予の平野はかすみある松山歌会の余韻保ちて  
 若葉おほふ木に赤き実はたわわなり新しき実と競ふがごとく  
 張り切つて行くデイの今日彼の人と又彼の人と会える楽しさ  
 危険度は即なからむとふ動脈瘤は右眼の奥にて美しき球型  
 手鏡にうつる吾が顔亡き母に似て來しものとつくづく思う  
 片便りなれど米寿の姉に送る春風も花も知らぬベッドに  
 足裏に地の冷えしを踏み登る坂のなかに重ね着ぬぎて  
 孫よりも若き先生の手を借りて歩む練習に快癒の嬉し  
 堆肥運び畝はつくれど胡瓜茄子トマト六本が吾の限界  
 友よりの長引く電話苦しみの互の痛み訴えながら  
 耳遠き夫に心が通はぬとき猫の金太郎にも言ひてをり  
 それぞれの胸の思いにアーチ組み心残して花園を去る  
 ゆるすぎる帽子の鑿に手をそへて若葉の道を子らに付き行く  
 川エビを焼きてもてなす船頭の川の話しに舟くだりゆく  
 今日買えば半額以下であったのか帽子のチラシ見れば残念  
 ワイパーはちぎれる如く振りており渋滞続く車列の中に  
 存在がなくなるといつこの意味未だ呑み込めず二人逝かしめ  
 幾匹のおたまじゃくしが泳ぎある楽しき書体の蝌蚪文字に会ふ

小野川恵仁  
小松もとみ  
坂上のぶ子  
田村 房子  
三宮のり子  
宮地 龜好  
都築 初代  
山崎 緑  
大岸由起子  
竹村 松子  
門田 喜美  
鍵山 みつ  
和田 利衛  
横田直加子  
岡崎 和枝  
蓮池 和子  
尾立 かよ  
森 晶子  
竹村 稔美  
秋山 正美  
大石 信子  
佐々木真里  
山下 弓枝

二人目はをみなと告げぬ八カ月の娘は何となく福ぶくとせり  
 ボーリング投げて記憶が甦る右手にかかる玉の重さに  
 「靖国で」と別れしは忠誠心よりも戒衣を着る身の諦めなりき  
 闘病五十年の歳月にふつと聴く今快方の夢  
 八十のピクニック満濃公園の若草に見収めと車椅子の妻  
 ふと見えし友の涙を癒し得ず我が心根の浅きを悔いて  
 二十才の日共々夢を想いたる貴女は何処六十となる  
 田植機に苗をさし込み植うる間に苗箱洗ひ補植もなさむ  
 故郷の空はけつして忘れなわが町最後に巢立つ君らを  
 ほほづきを手に握らせば笑まひたり童のごとき祖母を愛しむ  
 機織りて楽しさばかりさにあらず千々の想ひを布に織り込む  
 耕耘機の打ちかへしゆく田の隅に傾きて咲く大根の花  
 生きてゆく意欲の弱く透析が仕事となりて日々過ぎてゆく  
 小さき手に手袋をしておひな様飾る部屋にはぬいぐるみもあり  
 走り梅雨台風出來て早一号梅雨は追い討ちに來るかも知れぬ  
 姉逝きて荒れゆく庭にピラカンサ小鳥も見えず重く垂れいる  
 堅苦しき会合終へて帰る道はこべに小さき花咲くを見る  
 「岸豆」とふ古里しるす書に出合ふ幼日われの見聞きせしことも  
 香典の袋に己が名を記すそれだけの為の墨を磨りをり  
 万緑の溪吹く風に揺られつつ山藤の花檉より垂れぬ  
 藤棚の花のすだれに手触れゆく人皆優しき笑顔になりて  
 無意識のうちに吐きぬるとつこいしょ座るも立つも日に幾度か  
 あと幾年使ひ得るのか草けづる鎌も買ひたりステンレスの鎌  
 まなつらに焼きつくことし赤あかと高野の寺の石楠花の花  
 感傷と安堵こもこも我にあり家の始末の半ば終りて  
 曳く影を先立て返る植田道今日の西日を歎びとして

古川 安子  
森本眞理子  
岡林 華伝  
安井 岩雄  
高野 和一  
明石 満子  
小野寺朱実  
武内 弘子  
吉本 悦子  
山崎 貴子  
大石 千冬  
大石よし子  
竹内 市郎  
武内 菅恵  
岡村 和躬  
松中 賀代  
高橋 章  
北村佐喜子  
竹村 咲子  
出原 久子  
門田 明子  
公文 正子  
山崎かつみ  
公文 千恵  
佐竹 玲子  
楠瀬兵五郎

俳句・短歌の作品は、企画課内・広報委員会事務局へご投稿ください。

三十一文字に  
思いを託して**第四回 吉井勇顕彰短歌大会 作品募集**

今年も、吉井勇顕彰短歌大会を開催します。小学生から高齢の方まで、年齢を問わず短歌を募集しますので、言葉遊びを楽しみながら、31文字に思いを託してください。

**【作品募集要項】**

- 自由題 1人2首以内  
 出 詠 料 1,000円 (郵便為替または現金書留で、投稿時にお納めください)  
 書 き 方 すべてかい書ではっきりと記入。  
 原稿用紙の右半分に作品、左半分に必ず大会当日の出欠と郵便番号・住所・氏名・電話番号を記入。  
 受付後の作品の訂正不可。  
 応募作品は、著作権などの一切の権利を主催者が有します。投稿後の作品の返却はいたしません。  
 入賞作品は、入賞発表後記念館で展示します。
- 募集期間 8月2日(水)～8月31日(木) 必着  
 選 者 玉井 清弘氏 (NHK学園講師・「音」選者)  
 楠瀬兵五郎氏 (高知県歌人連盟会長)
- 賞 吉井勇大賞 (1首) 副賞、吉井勇賞 (3首) 副賞、佳作 (若干数)、選者特別賞 (2首)  
 入賞発表 10月9日(月) 13時30分～ 会場にて表彰式・講評  
 表彰会場 香美市香北町美良布1097  
 香美市基幹集落センター2階 大ホール (香美市役所香北支所隣接)
- 送 り 先 香美市立吉井勇記念館 吉井勇顕彰短歌大会 歌会係  
 〒781-4247 香美市香北町猪野々514  
 ☎ 58-2220 FAX 57-5995
- 講 演 大会当日、選者・玉井清弘氏の講演を予定しています。  
 投稿の有無に関わらず出席は可能ですので、お誘い合わせのうえ、ご来場ください。  
 入場は無料です。

**吉井勇記念館からのお知らせ****星 祭****旧七夕まつり**

勇が初めて猪野々を訪れたのは旧暦の七夕の日。

吉井勇記念館では、当時勇が見た昔ながらの懐かしい七夕飾りを、猪野々老人クラブの協力によって再現します。期間中は、当館にて用意した短冊に、願いごとや短歌・俳句を書いて飾ってください。昔を思い出しながら、ご家族で楽しんでいただけたらと思います。

**【展示期間】** 7月27日(木)～7月31日(月)

**関連企画 うたの星祭 ～ 投稿作品展 ～**

七夕に関する短歌・俳句を投稿してください。  
 投稿していただいた作品は、館内で展示させていただきます。

**【応募期間】** 7月7日(金)～7月31日(月)

**【展示期間】** 8月2日(水)～8月31日(木)

**【応募方法】** ハガキに住所・氏名・電話番号・作品(一人何点でも可)をかい書で明記。  
 持ち込み可。

「星祭」開催中、短冊に書いていただいても結構です。

**【応募先】** 〒781-4247 香美市香北町猪野々514

吉井勇記念館 「うたの星祭」係

